

町民の皆さんの信頼により 2年続きの黒字決算



平成19年度病院事業の決算が、11月に開催された町議会第1回臨時会で認定されました。

町立病院では、内科・外科・小児科を中心に、整形外科と脳神経外科の5診療科目で、医師体制を整え、常に優しさを持った患者の立場に立った診療活動を志し、3年目を迎えました。

平成19年度は、前年度に引き続き6、111万5千円の純利益となり、病院健全化状況を表す医業収支比率（医業収益を医業費用で割り返した比率）においても、84・3割となり、17年度と比較して11・9割の収支比率の改善が図られ、道内町村立病院の中でも上位に位置する状況となりました。

平成19年度 厚岸町病院事業会計の あらまし

■平成19年度患者数・決算状況 (単位：人)

入院患者	25,284
内科	19,140
外科	6,107
小児科	37
外来患者	62,768
内科	34,221
外科	9,084
小児科	8,803
整形外科	10,005
脳神経外科	655

内 訳	金 額
病院事業収益	1,338,745
医業収益	995,580
入院収益	495,929
外来収益	443,448
その他医業収益	56,203
医業外収益	343,165
患者外給食・その他医業外収益	8,049
他会計補助金	335,116
病院事業費用	1,277,630
医業費用	1,172,207
給与費	679,915
材料費・経費	428,112
減価償却費及び資産減耗費	61,157
研究研修費	3,023
医業外費用	105,423
支払利息及び企業債取扱諸費	85,441
医療技術員確保対策費	3,794
雑損費及び繰延勘定償却	16,188
当年度純利益	61,115

外来患者及び事業所健診者が増加
病院事業収支の上で大きな要素を占める患者数の動向は、入院が2万5、284人で、前年度対比817人、率にして3・1割の減となりましたが、外来では、6万2、768人で前年度対比3、531人、率にして6割の増加となりました。
また、地域全体を健康にするための予防医療は、事業所健診や予防接種事業を積極的に進めた結果、医業収益全体では、前年度と比較して946万円の収入増の確保となりました。

経営改革取り組み成果で医業費用の増加が縮小
病院事業費用については、平成17年

度及び平成19年度から取り組んできた2度に渡る経営改革の取り組みによる経費の節減効果が、全て形に表れる年となりました。
医業費用では、給与費で職員の退職に伴う特別負担金2、094万9千円と、経費で病院医事会計システムの入替等による758万4千円の支出増となりましたが、薬品診療材料費の節減やその他経費の節減に務めた結果、425万2千円の費用増加にとどまりました。
なお、給与費で職員が退職時発生した特別負担金を除くと、医業費用は前年と比較して、718万8千円の減額となっています。



地域医療を継続するため 不採算経費の補助金をルール化

地方自治体が経営する病院には、地方公営企業法の規定により、24時間救急・小児科・リハビリテーション医療の確保や施設・医療器械整備などの不採算な経費に対して、町が補助金として病院事業会計に財政支援を行った場合、国からは病床の確保や救急医療、建物の企業債（借入金返済など）、経費の一部が地方交付税（交付金）で財源補填される仕組みになっています。

一般会計と病院会計との間では、平成18・19年度の2カ年に渡り、民間等が行わない不採算な診療部門や経営基盤強化対策経費の明確な基準による補助金算出ルールづくりを行い、累積欠損金と不良債務の解消のために本格的病院再建を進めています。

これにより、医師をはじめとする医療スタッフに経営感覚を持った病院運営を行う気運が生まれ、病院内部の経営改革も進み、地域医療を行うための収支の大きな改善ができました。

なお、町の一般会計から病院事業に対する補助金は、病院事業運営経費で3億3、511万6千円、病院の建物を含む建設改良費で9、415万1千円の計4億2、926万7千円となっています。

このうち国からは、1億9、762万8千円、約46割の交付金を受けており、町の負担分は、実質2億3、163万9千円となります。

■町の補助金と国の交付金の推移 (単位：千円)

	平成17年度	平成18年度	平成19年度
町の補助金 (A)	304,664	407,479	429,267
企業債元利・建設改良	196,519	178,785	175,994
救急医療	81,021	118,108	126,042
その他	27,124	45,620	48,396
不採算地区病院対策	0	64,966	78,835
国の交付金 (B)	153,721	210,399	197,628
実質的な町の持ち出し分 (A)-(B)	150,943	197,080	231,639

■病院収支と累積欠損金の状況 (単位：千円)

	平成17年度	平成18年度	平成19年度
病院事業収益	1,125,173	1,308,376	1,338,745
入院収益	469,519	507,068	495,929
(入院患者数)	(23,716人)	(26,101人)	(25,284人)
外来収益	406,013	428,419	443,448
(外来患者数)	(48,915人)	(59,237人)	(62,768人)
他会計補助金	196,629	313,814	335,116
その他	53,012	59,075	64,252
病院事業費用	1,373,207	1,277,431	1,277,630
給与費	732,662	666,114	679,915
材料費	210,157	177,461	172,618
経費	235,943	247,910	255,494
企業債利息他	90,187	88,483	85,441
その他	104,258	97,463	84,162
当年度純利(損)益	△248,034	30,945	61,115
累積欠損金	1,048,767	1,017,821	956,706
うち不良債務	529,398	420,968	292,382

累積欠損金・不良債務が2年連続減少
平成17年度まで増え続けてきた累積欠損金(赤字)と不良債務(現金不足)は、平成18年度から減少に転じ、平成19年度は、10億円を超えていた累積欠損金(赤字)が9億5、670万6千円に、不良債務(現金不足)は1億2、858万6千円減少し2億9、238万2千円となり、病院会計の経営健全化にむけた着実な歩みとなっています。
病院の累積欠損金の中には、将来のための病院建て替えや医療器械の整備のために蓄えておく、現金の伴わない帳簿上で償却しなければならぬ経費

があります。また、不良債務として病院運営で現金の不足状況を表す金額もあります。
平成20年度から、新財政健全化法により一般会計をはじめとする全ての会



計を網羅した財政指針により、病院事業も評価されることになりました。
現段階では、国に指導される資金不足比率にはなっていませんが、不良債務(現金不足)が存在しており、平成21年度中に解消するべき課題として取り組んでいるところです。

声をかけてください
2巡目お茶の間懇談会開催中

病院での医師と患者の立場を離れて、町民の皆さんと一緒にあった懇談をしたい、地域のことを学びたいと、2巡目のお茶の間健康づくり医療懇談会を開催しています。



33の自治会組織や任意団体・事業所を対象に、初回に開催したときと同様、ご要望をいただければ、地域に出向きますので、お気軽に声をかけてください。

●問い合わせ／町立厚岸病院総務係
52-13145内線101